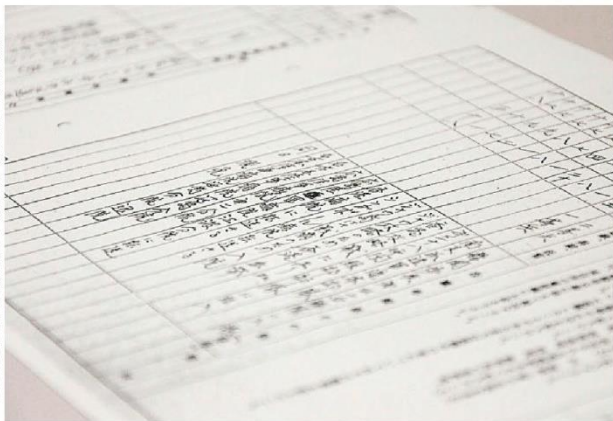


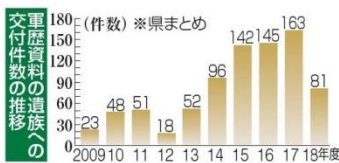
軍歴が記載された資料。孫世代からの照会が増えているという



県が保管している旧軍人の軍歴関係資料について、遺族からの照会が増えている。背景には、戦後70年（15年）や戦没者遺族への特別弔慰金の受け付け（15～18年）などに伴う関心の広がりがあると考えられ、ルーツをたどる孫世代からの照会が多いという。

終戦74年

つながれた命 ルーツたどる



県地域福祉課によると、遺族への資料交付件数は09年度に23件だったが、14年度に96件に急増。15年度は142件、16年度は145件、17年度は163件に上った。申請の受け付けが終了した18年度は81件にとまったが、20年に戦後75年を迎えることから、担当者は「再び興味や関心も高ま

県の軍歴資料 照会増 孫世代に関心広がる

ついでくのではないかとみている。県が保管しているのは、終戦時に県内に本籍を置いていた旧陸軍の軍人資料。兵籍や戦時名簿、軍歴証明者名簿、身土申告書をはじめ、恩給履歴申立書や復員名簿、本籍地名簿などがある。県は内規に基づき、原則3親等内の親族に資料の写しを交付している。担当者によると、家族史をまとめる目的などにより、近年は「孫世代からの請求が増えている印象」という。実際に父兄、母方双方の祖父の記録を取った県東部の40代男性は「祖父は生前戦争体験を話したが、ついでに、当時は自分に聞く耳がなかった。その後悔があった」と語る。軍歴を知ったことで「命をつないでくれたことのありがたさ」を改めて実感。「子どもたちにも伝えていきたい」と思いを語る。

一方、旧海軍については厚生労働省が関係資料を保管し、軍歴を証明している。09年度に544件だった個人への交付件数は、14年度に1656件と激増し、戦後70年の15年度には1869件に達した。以降は1300件前後で推移している。（社会部・佐藤弘弘）

2019年
8月15日
朝刊

- ① 静岡県出身者の戦没軍人・軍属を神様としてお祀りしている、静岡県護国神社について調べよ。
- ② ご先祖様を守り神とする「祖霊信仰」の現代の在り方を考察せよ。
- ③ 世界宗教が原始宗教を取り込みつつ伝播していった過程を考察せよ。

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 実石 克巳（静岡県立静岡高校 教諭）

（高校／国語）

<参考>①＝地域学に関する問題、②＝社会学・民俗学に関する問題、③＝宗教人類学に関する問題